

本遠寺書院の復原研究

Keywords

本遠寺 復原
書院 日蓮宗

1. はじめに

1.1 研究背景と目的

山梨県の南部、身延町にある本遠寺は、慶安3年(1650)から主な堂舎の造営が行われた。しかし、慶応3年(1867)の火災により本堂、鐘楼堂以外の建物が焼失してしまった。その後、本堂と鐘楼堂は国指定重要文化財に指定されており、平成14年(2002)には保存修理工事が行われた。



写真1 本堂

写真2 鐘楼堂

本研究では、慶応3年(1867)の火災により焼失してしまったが再建され現存している書院を対象とし、建物の変遷過程を明らかにすることを目的とする。そして、建築的価値ならびに歴史的価値を追求していき、登録有形文化財のための基礎資料とする。

1.2 研究方法

- (1) 現状の本遠寺の実測調査を行う。
- (2) (1)の実測図面を基に、CADで現状三次元立上げを行う。
- (3) 「大野山由來記」の分析を行い、建物の変遷を明らかにする。
- (4) (2)を再建当初の形態へ復原する。
- (5) 山梨県にある他の日蓮宗寺院との比較分析を行う。

2. 調査について

実測調査

調査日：2013年9月17日

対象：本遠寺 書院・仁王門・開山御廟

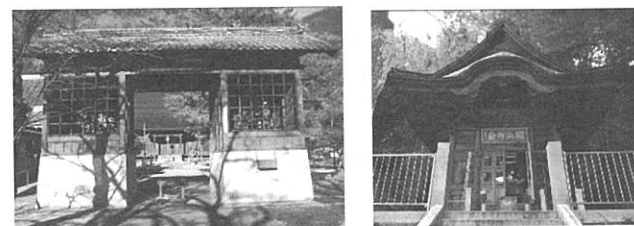


写真3 仁王門

写真4 開山御廟

研究指導：伊藤洋子 教授

K10101 森本祐太

3. 本遠寺について

表1 歴史年表

元号	西暦	できごと
慶長 14	1609	本遠寺創建
寛永 13	1636	「大野山本遠寺」と定める
正保 3	1646	家光より御朱印、寺領260余石寄付
慶安 3	1650	本堂建立 位牌堂・廊下落成
承応 2	1653	鐘楼堂・養珠院墓所建立
承応 3	1654	仁王門建立
慶応 3	1867	火災。本堂・鐘楼堂を除き焼失
明治 22	1889	(現存)仁王門再建
明治 36	1903	銅版画「大野山本遠寺之景」
昭和 7	1932	(現存)宝蔵完成
昭和 41	1966	本堂 身延町文化財指定
昭和 61	1986	本堂・鐘楼堂 重要文化財指定
平成 14	2002	本堂・鐘楼堂 保存修理事業着手
平成 20	2008	保存修理事業完了

3.1 概要

本遠寺は山梨県南巨摩郡身延町大野に位置し、身延山久遠寺から独立した日蓮宗本山(由緒寺院)で、甲斐百八霊場の第104番札所ともなっている。山号は大野山であり、約1万2千坪の境内を構える。日蓮聖人坐像のほか、木造伝釈迦如来立像、釈迦如来坐像を祀る。

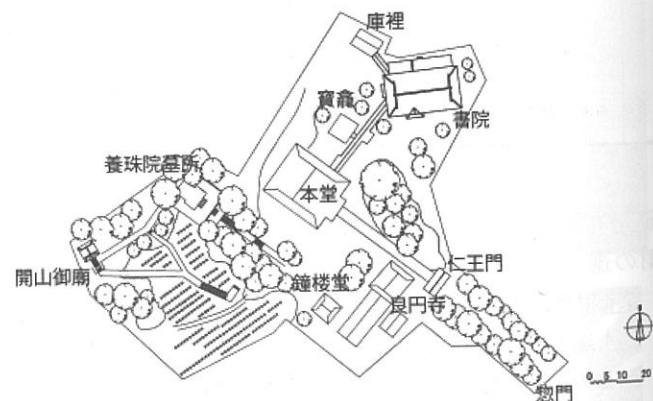


図1 本遠寺配置図

3.2 沿革

本遠寺の創建は、「甲斐国志」によれば、慶長14年(1609)であり、徳川家康の側室であるお万の方の帰依を受けた、日蓮宗総本山身延山久遠寺第22世日遠聖人によるものである。

現在の境内には、本堂・鐘楼堂・仁王門・開山御廟・書院・庫裡・宝庫・養珠院の墓所がある。

Yuta MORIMOTO

「甲斐国社記・寺伝」によれば、当時の伽藍として、現存する本堂、鐘楼堂のほか、主要な建物だけでも、七面堂、庫裏、玄関の間、玄関、書院、居間、廊下、宝蔵、位牌堂、開山堂、祈祷堂などがあつた。これらの伽藍は、慶応3年(1867)3月9日の火災により、現存する本堂および鐘楼堂を除くすべての建物を失うこととなる。

4. 本遠寺書院について



写真5 書院正面

写真6 書院側面

4.1 概要

大野山本遠寺における書院は現在桁行13間、梁間11間の大型建物となっている。屋根は入母屋造で、用途としては寺の会合、檀家の集まり、行事等に使用されており客のための建物である。部屋の構成は上段の間、下段の間、続き間の他、大広間を複数持っている。上段の間は「お万の方の部屋」であり、「格式のある部屋」となっている。

現在、書院や庫裡のような建物は老朽化や生活様式の変化により旧来の姿を維持することが困難になっており、改築される機会が多く、旧来の姿は消滅していきつつある。本遠寺書院も例外ではなく、すでに増改築されたものとなっている。



写真7 上段の間

写真8 下段の間

4.2 変遷

(1) 再建

書院の北西に住居である庫裡があり(図1)、用途の公私が区別されている。しかし、図2の明治の銅版画には現在の書院が「庫裡」と書かれている。この原因としては建物東側の土間とその北側の炊事場から、この建物には住居的要素があり、「この建物の呼称は混用されていた」と考えられる。

このことから建物の創建が2つ考えられることになる。一つ目は明治の銅版画の通りこの建物を「庫裡」と解釈するならば大野山由來記から再建は、文久2年(1862)～明治5年(1872)となる。二つ目は現在の通りこの建物を「書院」と解釈するならば大野山由來記から再建は、明治25年(1892)～明治36年(1903)と考えられる。

しかし、明治の銅版画の呼称の通りに考えてしまうと大野山由來記に記載されている「書院」がなくなってしまうことになる。このことからこの建物は「書院」と呼ばれることが正しいと考えられる。これにより書院の再建は明治25年(1892)～明治36年(1903)となる。

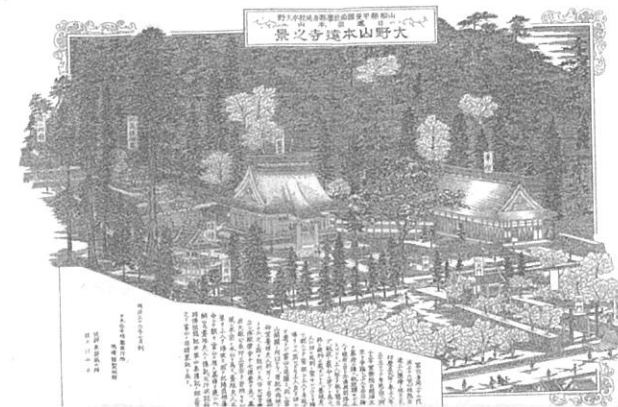


図2 明治の銅版画

(2) 北側の増築部

図2の明治の銅版画(明治36年)には見られない部分が現在の書院の北側(図3の1の部分)には見られる。この北側部分は明治36年(1903)以降に増築されたと考えられる。この増築部分は炊事場、風呂、事務所があり住居的要素がある。

(3) 玄関の両脇部分

平面図南側の玄関の両脇部分(図3の2の部分)は、明治35年に増築された。用途は受付等だが、現在は物置のように使われている。

(4) 便所

平面図西側の便所(図3の3の部分)は、平成7年(1995)から平成8年(1996)頃に増築された。

(5) 広間

平面図東側の広間(図3の4の部分)は、平成13年(2001)に土間から畳敷きの広間へと改築された。

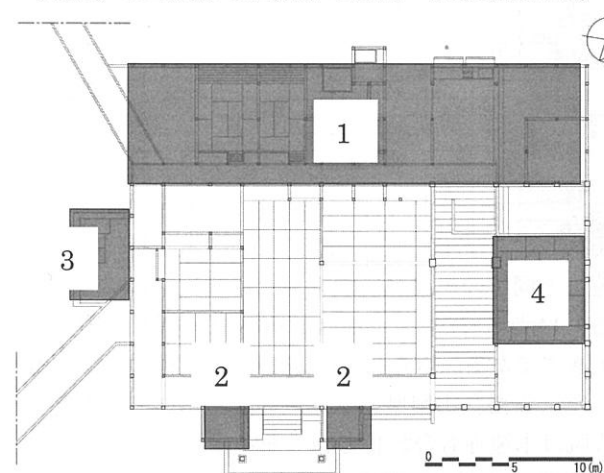


図3 書院平面図

(図中番号は上記(2)～(5)に説明)

このように増改築が多数あり当初の姿に復原することに意義があると考え。

4.3 実測図面

実測調査で得た情報を図面化し、復原の基礎資料とする。

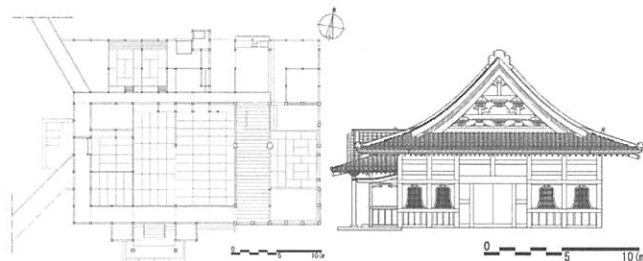


図4 平面図

図5 東立面図

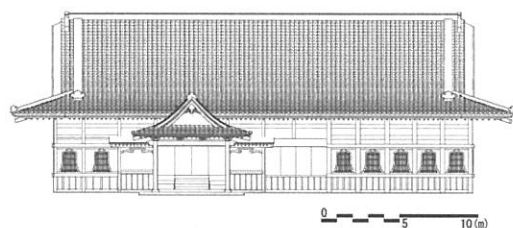


図6 南立面図

5. 山梨県の日蓮宗寺院との比較

5.1 山梨県の日蓮宗寺院418寺との比較

「山梨県宗教法人名簿」(昭和55年)によれば山梨県の寺院数は1469寺である。その中で日蓮宗寺院は418寺で、全体の28%ほどを占めている。本遠寺の特徴を分析するため、山梨県の寺院の中から日蓮宗寺院である418寺を選定し、境内の規模(面積)・堂宇の数・種類の比較を行うことで建築的位置づけを明確にする。

表2 本遠寺と同等規模の日蓮宗寺院

名称	久遠寺	立正寺	信立寺	永立寺	大立寺	長立寺	妙法寺	源立寺	妙法寺	基立寺	本遠寺
主要建物	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
客殿	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
庫裡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鐘樓堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
七面堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
祖師堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
香神堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
稲荷堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
包摂神	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鬼子母神堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
明神堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
観音堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
明神堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
八幡堂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
蔵ほか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宝蔵	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土蔵	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経蔵	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長屋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
書院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
庫裡客殿	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
本堂庫裡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

本遠寺と同等の規模の境内をもつ寺院は、本遠寺も合わせると11寺あった。この11寺の境内の規模は山梨の最高の大きさである。さらに1000坪以上の規模のものは32寺あった。また、山梨県の日蓮宗寺院において、書院のある寺院は本遠寺も合わせて14寺あった。

5.2 山梨県の本山系日蓮宗寺院2寺との比較

寺院の規模は本山系と末寺系では極端に違う。このことから本遠寺と規模の近い本山系の久遠寺と妙法寺を重点的に比較していく。

表3 比較項目

	本遠寺	久遠寺	妙法寺
山号	大野山	身延山	徳栄山
宗派	日蓮宗	日蓮宗	日蓮宗
寺格	本山(由緒寺院)	総本山	本山(由緒寺院)
本尊	十階曼荼羅	三寶尊	大曼陀羅
創建年	1609年(慶長14年)	1281年(弘安4年)	693年(持統天皇7年)
開山	心性院日蓮上人	日蓮	日蓮
開基	養珠院(お万の方)	南部実長	役行者
主要建物	本堂 客殿 庫裡 鐘樓堂 七面堂 祖師堂 香神堂 朝師堂	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
包摂神	○	○	○
門	○	○	○
蔵ほか	宝蔵 土蔵 経蔵	○ ○ ○	○ ○ ○
書院	○	○	○

5.3 久遠寺(法華宗身延派)

5.3.1 概要

山梨県南巨摩郡身延町にある、日蓮宗の総本山、山号は身延山である。弘安4年(1281年)に十間四面の大坊が整備された。しかし、明治8年(1875年)1月に西谷本種坊からの出火で伽藍全部を焼き尽くしたが、74世日鑑の尽力とその後の法主の力により現在に至る。

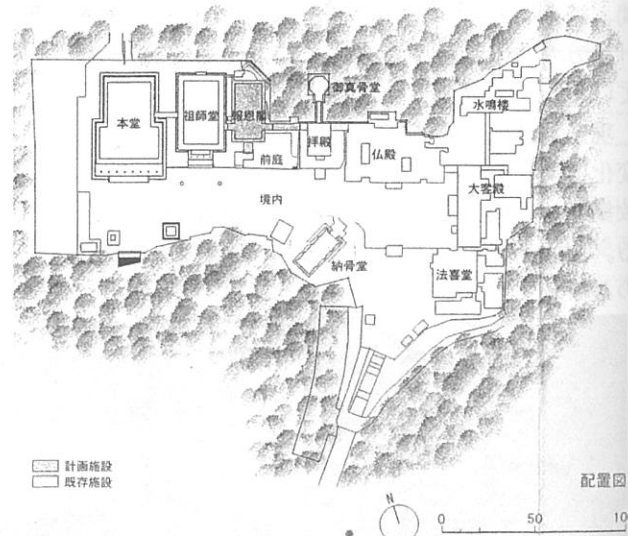


図7 久遠寺配置図

5.3.2 堂宇と配置

日蓮歿後、「墓所寺」としての性格をもっていた。その後、日興によって日蓮の御影像が造立され、住房は御影堂に改築されている。

貞享2年(1685)刊行の「身延鑑」によると本堂内部より祖師堂内部の方が荘厳化され、日々の行儀も祖師堂でおこなわれていることから祖師堂が中心的堂宇であったと考えられる。

主要堂宇である本堂・祖師堂・位牌堂の三堂の中でも祖師堂の規模が最も大きく、中心的堂宇であったにもかかわらず、二王門の軸線が本堂正面に存在している。この理由は、旧地西谷において祖師堂が中心堂宇であり、現在地東谷に伽藍を移した後も祖師堂が中心堂宇であり、すでに身延山久遠寺の基本的伽藍配置が出来上がってい

ため、第13世日伝の代に大堂たる祖師堂が再建された時に旧御堂(御影堂)が本堂に転用されたからであると考えられる。



写真9 本堂



写真10 仏殿

5.4 妙法寺(法華小室派)

山梨県南巨摩郡富士川町小室3063番地にある日蓮宗の本山、山号は徳栄山または小室山である。「あじさい寺」、「俳句寺」としても有名である。以前は真言宗寺院であったが鎌倉時代の建治元年に住職であった日伝が日蓮と法論した後に弟子となり、日蓮宗寺院に改宗した。正徳2年(1712)に総門建立、明治30年(1897)に三門建立、平成12年(2000)に本堂が建立がされた。

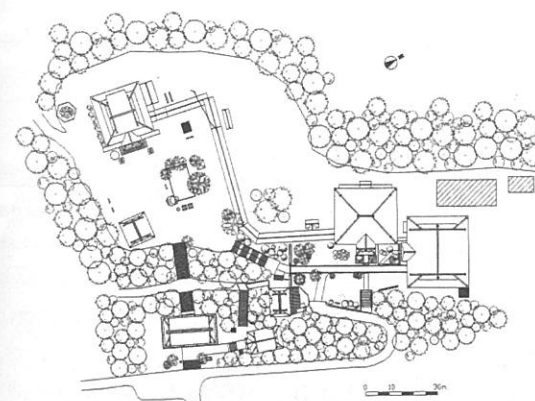


図8 妙法寺配置図



写真11 本堂



写真12 鐘楼

5.5 本堂の比較

山梨の日蓮宗寺院の本堂は五間堂が多い。五間堂とは正面の柱間数が5間の仏堂であり、密教寺院の本堂として発展継承されてきたものである。

屋根は入母屋造平入が多く、現在残っていない亜鉛引鉄板で葺かれているが、茅葺ないし檜皮葺を改修したものである。平面構成は類似し、基本的には三間四方の内陣を囲んで、正面に2間の外陣、左右に1間の脇陣、背面に1間の後陣を設ける形が多いが久遠寺と妙法寺は当てはまらないことがわかった。

5.6 小結

それぞれの寺の配置は3寺ともよく似ており、堂宇も同じ種類の建物が多く見られることがわかった。このような3寺の配置、建物の種類が大型日蓮宗寺院の特徴であるといえる。しかし、堂宇の配置は同じような配置をしているにもかかわらず、久遠寺は祖師堂を中心とし、本遠寺と妙法寺は本堂を中心に行っているという違いがあった。

6. 三次元復原

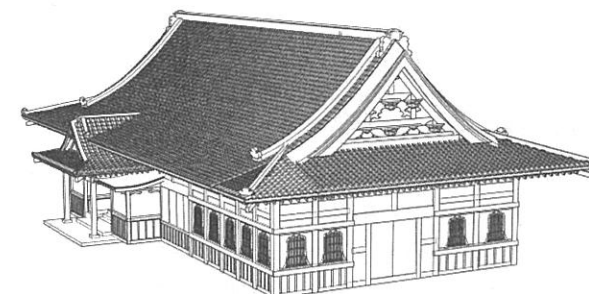


図9 東面パース



図10 南面パース

7 まとめ

書院について、再建は明治25年(1892)～明治36年(1903)であると考え、増改築の変遷も明らかになった。さらに、山梨県の日蓮宗寺院との比較を行い、総本山である久遠寺とも近い部分が多々見られる。本遠寺は江戸初期に創建された大型日蓮宗寺院であり、明治建築の書院ほか2棟も現存する貴重な存在であると考え。

参考文献

- 「重要文化財本遠寺本堂及び鐘樓堂保存修理工事報告書」
財団法人文化財建造物保存技術協会 平成21年
- 「大野山由来記」 本遠寺所蔵
- 大野山 本遠寺・甲斐百八霊場
<http://www.y-shinpou.co.jp/108/104ono.htm>
- 「甲斐国 社記・寺記 第四巻」 山梨県立図書館 昭和44年
- 定本・甲斐百寺 郷土出版社 1996年
- 山梨県の近世社寺建築 山梨県教育委員会 昭和58年
- 日本建築学会計画系論文報告書 日本建築学会 1987年
- 宝塔湧現 身延山五重塔復元建立記念誌 身延山五重塔復元建立奉賛会実行委員会 2009年
- 身延山五重塔の復元 久遠寺五重塔復元工事の記録 財団法人 文化財建造物保存技術協会 2009年